

■ 連載 縄文以来の伊達心



「キャメル」

暖かさは三倍、軽さは三分の一

マテリアル・コンサルタント 川島茂信



1) 沿革：駱駝は中国内蒙古、新疆ウイグル地区、モンゴル人民共和国からサマルカンドに渉たる中央アジアの砂漠の殆

ど全域に生息する双こぶ駱駝とアフガニスタン、イラン、イラク、サウジアラビア、シリア、エジプトの砂漠に生息する一こぶ駱駝とがあり、繊維原料として毛を供給するのは双こぶ駱駝で、一こぶ駱駝の毛は短くて、土地の人は手紡ぎするが紡績原料としては取り扱われない。駱駝の毛は剪毛するのではなく、春になると自然に脱毛するのを梳いたり、拾い集める。体の外側は、長さ38cm、太さ75ミクロンの針金のような強靱な粗硬毛で覆われ、その下に18~23ミクロンで長さ2.5~12cmの細軟毛が密生している。手選別またはLISTER COMBERで細軟毛と粗硬毛とに大別され、細軟毛が更にカシミヤと同じ様に整毛により粗毛を取り除く。細軟毛は大変軽くて毛と毛の間に空気を孕んで盛り上がる性質があり、保温力は抜群で、羊毛

に比して暖かさは三倍、軽さは三分の一と言われ昔から北極・南極探検用の下着・オーバーコートに最適とされた。軽くて、強靱で、暖かさが最高なのでスポーツ用セーター、毛布、コート、織物、手編み、肩掛けに愛用され、冬の寒い欧州、北米東北部では重要越冬衣料です、粗硬毛は毛芯、カーペット、インテリアに用いられる。産毛量は中国で150万kg、モンゴルで100万kgである。

2) 染色：天然の色は駱駝色一色で、BLEACHの度で、薄色、白にもなるが、染色すると風合いが固くなる性質で、整毛上がりの原料の段階では、カシミヤのような柔らかさと滑りがあるが、製品に仕上がるにつれ残滓や油脂分が取れると駱駝の毛固有のHARSHな手触りに戻るから予めの説明と了解が必要である。色は限られ、繊細な手触りはないが、欧州、北米東北部では軽さと、保温力、強靱さから、カシミヤより高く評価され、中国でも駱駝の毛布はカシミヤの毛布より実用性が高く評価されている。秋・冬キャメルのセーターを着れば、ゴルフのスコアも良くなる筈です。

==トピックス==

愛・地球博で『竹取物語』（一宮の日）

愛・地球博では6月3日、一宮市の日を迎え、長久手愛知県館「あいち・おまつり広場」で一宮市製作のミュージカル「竹取物語」が上演され、来場者の喝采をあびた。

脚本・鏡味富美子、構成・演出・近藤隆司、出演・劇団シンデレラ、衣装デザイン・小林シゲキのキャストで上演されたこのミュージカルは、「汚染された地球にかぐや姫から環境保全のメッセージ」が届くもの。

ストーリーは、20XX年、時の地球は開発により伐採された大地、汚れた空気や水によって侵され、多くの森、林が消滅し、竹林さ

え無くなろうとしていた。そんな地球に「かぐや姫」からのメッセージが届く。

そのメッセージは一宮の若者「星矢」と機織娘「沙織」らが演じるミュージカルや、竹繊維で出来た衣装によるファッションショー、地元出身ミュージシャン・丹菊正和のライブパフォーマンスで伝えられる。ミュージカルには多くの子供達が出演し、さながらファンタジックミュージカルとなった。

(ご興味のある方はトップ目次からシナリオ全文へ)

